

重点戦略

めざす都市像の実現に向けて、優先的に取り組む4つの戦略を「重点戦略」としてまとめました。

各戦略の推進に日々奮闘し、活躍する市職員の取り組みを紹介します。



1

子どもや親を総合的に支援し、 未来を担う人材を育てます

チームで取り組む
きめ細やかな支援

—なごや子ども応援委員会について教えてください。

川岸さん：平成26（2014）年に

スタートした「なごや子ども応援委員会」は、スクールカウンセラー、

スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザー、スクールボリ

ス等で構成されています。多職種

を配置し活動の拠点となる中学校

11校のほか、全中学校に常勤のス

クールカウンセラーを配置し、専

門的な知識や経験を持つスタッフ

が連携・協力しながら、さまざま

な悩みや心配を抱える子どもや保

護者への支援体制を整えています。

阪口さん：常勤の専門職を学校に配置することで、子どもたちと普



ちの表情や様子から、悩みや心配を抱える子どもをいち早く見つける大切な時間です。

朝位さん：見つかった課題や対応す

るべき事案については、チーム会議で情報共有や検討を行っています。

阪口さん：相談室などでの子どもや保護者との個別面談だけでなく、

家庭訪問も行っています。スクール

カウンセラー一人では対応が難しい

こともありますし、一人でできるこ

とに限界がありますので、チー

ムで活動するというのが、子ども

応援委員会の大きな特徴であり、

メソットもあります。子どもた

ちや保護者にとって、最善の環境

づくりを先生方と一緒に考え、取

り組んでいます。



1 未来を担う人材が育つ！ 「子ども・若者応援戦略」

①子ども・親総合支援の推進

②子どもの健やかな育ちの支援

③幅広い学力の育成、体力向上の推進

④グローバル人材・ものづくり人材・

ICT人材の育成に向けた教育の充実

⑤学びを支える教育環境の充実

⑥若者が学び活躍できる環境づくり



2 安心して子育てできる！ 「子育て応援戦略」

①妊娠前から子育てにわたる切れ目のない支援

②働きながら子育てしやすい環境づくり

③社会全体で子育てを支援する環境づくり

子どもたちが主体的に
人生の針路を探す
応援をしています



なごや
子ども応援委員会

(左)スクールカウンセラー
阪口 裕樹さん

(中央)スクールカウンセラー
川岸 晃子さん

(右)スクールソーシャルワーカー
朝位 啓さん

夢と希望にあふれる 未来へ向けて

の網の目が小さくなり、きめ細やかな支援に結びつきます。

——今後、力を入れて取り組んで
いきたいことや目標は?

川岸さん：保護者の方から子どもたちが卒業後も元気でいるようとお話をいただきたり、先生方に私たちの考え方や思いが通じて、連携して充実した支援ができたりした時は、うれしいですね。大きなやりがいを感じます。子ども応援委員会という全国で他に類を見ない制度の中で、もつと活躍できる自分であります。名古屋の子どもたちが毎日を幸せだと感じ、「明日が来るのが楽しみ」と、そう思えるような人生を歩んではほしいです。

阪口さん：毎日子どもたちと関わっている中で、「何かあれば、この人たちに話してみればいいんだ」と理がいを感じるとともに、相談しやすい環境づくりの大切さを感じています。緊急事案であっても、常勤で

あるからこそ即時対応できますし、初動から

学校とともに支援にあたることができます。

今後も、小学校から中

学校へ、中学校から高

校へと、環境が変わることなく、子どもたち一人ひとりに必要な支援がリレーのようにつながる名古屋市にしていきたいです。

朝位さん：私たちの仕事は、舗装されていないところに、子どもたちが自分の力で自分の道を拓くことをお手伝いするようなものです。黒衣のような存在です。それでも、まちで卒業生から声をかけられたり、元気でいる姿を見たりすると、私たちも勇気づけられます。子どもたちが将来なりたい仕事に、「学校の先生」だけじゃなく、「子ども応援委員会の人」が加わるよう、取り組んでいきたいですね。



みんなにやさしい福祉を実現し、 まちづくりを進めます



地域福祉の身近な窓口

—保健福祉センターのお仕事について教えてください。

森さん：熱田区保健福祉センターで、子どもや高齢者、障害のある方への支援や健康づくりの推進などに取り組んでいます。区民の皆さんとの身近な窓口として、気軽にご利用、「ご相談いただけるようつとめています。

大橋さん：私は、南区保健福祉センターで、主に地域包括ケアシステムの推進に携わっています。住民と行政、関係機関が集まって地域課題の解決に向けた支援や対策を取り組んでいます。

森さん：熱田区では、ロコモティブシンドromeの予防に力を入れています。「あつた口コモ予防大使



(養成講座を受講した区民)の皆さんと区の保健師が協力して「なごや健康体操熱田区オリジナルバージョン」の普及・啓発活動を推進するなど、区民による区民のための健康づくりをめざしています。

大橋さん：南区は、高齢化率が市内で最も高いということもあり、介護予防の取り組みとして、「レツツ☆スマイル隊」という区民グループとの協働や、「いきいき百歳体操」の拠点づくりなど、地域の皆さんと一緒に運動習慣づくりを進めて

います。また、「高齢の方などから困りごとの相談があつた場合に、必要な機関につなぐためのネットワークの構築もめざしています。

森さん：悩みや困りごとは、人それぞれに違います。複雑な問題を抱え地域で困っている方を、医療機関や民生・児童委員などの地域の役員さん、他職種と連携して適切な支援につなげていく過程では、苦労もありますが、笑顔や感謝の



長寿社会を安心に！ 「健康・安心戦略」

- ① 健康づくり・予防医療の推進、先進的な研究の推進
- ② 救急医療体制の充実
- ③ 認知症施策の充実など地域包括ケアシステムの深化・推進



誰もが活躍！ 「ダイバーシティ推進戦略」

- ① 人権が尊重され、多様性を認め合う社会の実現
- ② 多様な人材の活躍推進
- ③ 障害者の地域生活支援
- ④ パリアフリーのまちづくり

みんなでつくる！ 「地域コミュニティ活性化戦略」

- ① 活躍できる場の形成と参加に向けた地域活動の促進
- ② 地域の多様な担い手の育成・支援

言葉に大きなやりがいを感じます。

大橋さん：「自分たちの地域をこうしたい、変えていきたい」と前向きに考えていらっしゃる方に出会うと、とてもうれしいですし、やりがいにつながります。地域の課題を自分でととして捉え、自分にできることは何かを考え、地域のために貢献しようとする姿に刺激をいただいています。

すべての市民が健康に活躍できるまちへ

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

大橋さん：困っている人を放つておかぬ地域づくりが大切だと思います。誰にでもSOSを発信でき、手を取り合えるような地域にしていきたいですね。地域包括ケアの現場では、複合的な課題を抱えながら、相談に至らず、制度の狭間で苦しんでいる人がいます。今、名古屋市では、そのような人たちが相談しやすい体制づくりを進めています。縦割りではなく、横への広がりで課題解決への道筋が立てられるような仕組みができるらしいなと思います。



名古屋学院大学名古屋キャンパスたいとうを会場に活動する「あつた口コモ予防大使」の皆さん

森さん：名古屋市では、「ワンコインがん検診」や予防接種の費用助成など、先進的な取り組みを進めています。これからも、誰もがより長く健康を保ちながら活躍できるまちであってほしいですね。地域や大学、企業などと連携して、

日頃から市民が気軽に参加できる活動がある。そこで人とのつながりが生まれ、困った時には相談できるような環境を整えていきたいです。

日頃からのつながりで
誰にでも相談できる
地域づくりを



(右)熱田区
保健福祉センター 所長
[保健師]
森 登志恵さん

(左)南区保健福祉センター
福祉部福祉課 主査
[保健師]
大橋 加奈さん

3

災害から命と産業を守り、 安心・安全な暮らしを確保します



いのちを守る使命感

——救急救命士のお仕事を教えてください。

私は救急救命士として、日々、

人命救助の最前線で任務に就いています。具体的には、119番通報を受け付けた名古屋市防災指

令センターからの出動命令のもと、救急車で現場に向かい、ケガや病気の人をいち早く病院にお連れします。現場では、症状や経過を把握して病院に伝えたり、場合によつては、状態の悪化を防ぐために、医師の指示のもと、点滴などの処置を行います。

市民の皆さんの健康や命を守ることで出動していることになります。

安心・安全を実感できるまちへ

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は?

勤務時間中は気を抜くことが許されませんが、その分、一件一件の出動に大きな使命感を感じています。「救急隊の到着を待つ時間がとても長く感じた」とおっしゃる方も少なくありません。「不安で胸が押しつぶされそうな人が待っている」そんな思いを持つて、迅速な出動やいま

市の年間救急出動件数は、約13万4千件(平成30年中)で、9年連続して過去最多を更新しています。これは、約4分に1回のペース

早い現場到着につとめています。最近では、地域の方による胸骨圧迫(心臓マッサージ)で一命を取り留められた例がありました。私たちの到着前に現場でそのような処置が施されたという、「救命の連鎖」によって命が守られた事案としても印象に残っています。

備えを万全に! 「地域防災戦略」

- ①防災啓発活動の推進
- ②地域特性に応じた防災対策の推進



3

安心して暮らせる! 「暮らしの安心・安全戦略」

- ①救急救命体制の充実
- ②安心・安全な地域づくり

災害に強く! 「災害対応力向上戦略」

- ①消防・救助体制の充実、防災拠点等の機能強化
- ②情報収集伝達手段の多様化・充実
- ③指定避難所の機能強化
- ④耐震対策・浸水対策など都市防災機能の強化
- ⑤帰宅困難者対策の推進

市民の信頼に応え
安心・安全を実感できる
まちづくりを
支えていきたい



消防局救急部
救急課指導係
坂部 瞬さん

重点戦略

急出動件数はさらなる増加が見込まれており、消防局を挙げて対応していく体制が必要となります。私は、これまで6年間、救急救命士として気管内挿管や点滴、薬剤投与といった専門的な処置を学びながら、救急救命に専従してきました。今後は、これまでに得た知識・技術を広く他の消防士と共有したり、後進の育成にも力を注ぐなど、実務面での人材育成に取り組んでいきたいと考えています。

一方で、現場で働く私たち全員が取り組むべき課題として、地域防災活動の支援があげられます。南海トラフ巨大地震発生時の本市

があつてのことだと感じています。今後も、日々の訓練と工夫によつて、絶えず時間短縮をめざしていくことはもちろんですが、救

の被害想定では、家具転倒防止対策などを実施することで、負傷者が半分程度にまで減少すると推計しています。いざという時への備えと減災につながるよう、各家庭や自主防災組織へのたらきかけをはじめ、市民の皆さんのが将来にわたつて安心・安全を実感し続けられるまちづくりを支えていくことが、私たちの重要な任務であると考えています。



救急隊と救助隊が連携した
救出訓練

強い経済力を基盤に、にぎわいと 新たな価値を創出し、環境と調和した 都市機能を強化します

イノベーションを
名古屋に吹き込む
——お仕事の内容を教えてください。

かつては、日本の企業が世界の時
価総額ランキングの上位を独占し
ていましたが、近年では、Google
やAmazon、Facebook、Apple
をはじめとする海外の企業が上位
を独占しており、日本の存在感が
薄くなっています。このような背
景の中で、名古屋市では、イノベー
ションの起爆剤となるスタート
アップ企業の創出や環境整備に力
を入れており、私は、そうした施
策の立案や施設の運営、プログラ
ムの企画などを担当しています。

平成29（2017）年には、情
報技術を使ったアイデアを若手工
業者から選ばれ、「NAGOYA
HACKATHON（ナゴヤハッカソン）」
を開催したほか、平成30（2018）
年からは、イノベーターア
クセス・ビジネス創出プログラム
「NAGOYA BOOST 10000（ナ
ゴヤブーストテンサウザンド）」
を、さらに、令和元（2019）年
には、既存企業とスタートアップ
企業の交流・対流の拠点となる
「NAGOYA INNOVATOR'S
GARAGE（ナゴヤイノベーターズ
ガレージ）」のオープンに携わっ
てきました。ハツカソンなどの事業
は、企業をただ集めるだけではな
く、新規事業の開発に至るよう
な丁寧なサポートにつとめています。
企業同士をつなげて、そこから新
しいビジネスや企画が生まれると
う嬉しいですし、企業のニーズを

ソジニアラが競う「NAGOYA
HACKATHON（ナゴヤハッカソン）」
を開催したほか、平成30（2018）
年からは、イノベーターア
クセス・ビジネス創出プログラム
「NAGOYA BOOST 10000（ナ
ゴヤブーストテンサウザンド）」
を、さらに、令和元（2019）年
には、既存企業とスタートアップ
企業の交流・対流の拠点となる
「NAGOYA INNOVATOR'S
GARAGE（ナゴヤイノベーターズ
ガレージ）」のオープンに携わっ
てきました。ハツカソンなどの事業
は、企業をただ集めるだけではな
く、新規事業の開発に至るよう
な丁寧なサポートにつとめています。
企業同士をつなげて、そこから新
しいビジネスや企画が生まれると
う嬉しいですし、企業のニーズを



1 来たれアジア！リニア！ 「都市機能強化戦略」

- ① リニア中央新幹線開業に向けた都心の魅力づくり
- ② 第20回アジア競技大会を契機とした基礎整備
- ③ 最先端モビリティ都市の実現に向けた取り組みの推進

- ④ 公共交通の快適性・利便性の向上
- ⑤ 広域交通ネットワークの強化

2 持続可能な未来へ！ 「環境都市推進戦略」

- ① 低炭素なライフスタイル・ビジネ
ススタイルへの転換
- ② 緑に親しめる環境づくり、水循環
機能の回復、生物多様性の保全
- ③ 社会経済情勢の変化に対応した
3Rの推進
- ④ 環境と経済・社会をつなぐ統合的取
り組みの推進



市民経済局産業部
産業労働課 主査

稻垣 尚起さん

職先を選んでいる人もいます。また、スタートアップ企業の中には、AI、ロボット、宇宙、ヘルスケアなどの幅広い分野で、将来有望な企業が輩出されつつあります。

——今後、力を入れて取り組んでいきたいことや目標は？

イノベーションの創出には担い手となる挑戦者を多く輩出することが必要です。起業家や、企業内で新規事業に取り組める人材を育成するアントレプレナー教育（起業家人材の育成）を積極的に行うべきだと思います。

世界を見据え
グローバルに展開できるよう
企業同士の相乗効果を
高めていきたい

重点戦略



新たなビジネスチャンス創出のためのピッチイベント「NAGOYA BOOST DAY」

3

交流を促進し
新たな価値を創出！
「イノベーション戦略」

- ①イノベーション創出・創業等支援
- ②価値づくり産業・成長産業の振興、戦略的企業誘致
- ③産業交流の促進、MICE（マイス）の推進
- ④地域商業の活性化
- ⑤産業人材の育成・確保

4

魅力資源の磨き上げ！
「魅力向上・発信戦略」

- ①名古屋城を中心とした魅力軸の創出・発信
- ②文化・歴史資源、観光資源など名古屋が有する魅力の向上・発信
- ③国際交流の推進、受入環境の整備、海外からの誘客促進
- ④スポーツ、ポップカルチャーを活かした魅力の創出・発信
- ⑤シビックプライドの醸成

私の好きな名古屋



用語解説

▼ IoT

じっくり、よく探してみるといつもと違う魅力に気づくかもしれません。

和菓子は断然日本一！味も見た目もクオリティが高い。

自信を持って言えます！

名古屋の人は、心の中にまちに対する深い愛情を秘めていると思います。

それを愛おしく感じます。

Internet of Things の略。モノのインターネット。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などをを行うこと。

▼ イノベーション

従来の考え方などられない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。

▼ AI

Artificial Intelligence の略。人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。

▼ 救急医療体制

(第一次体制)風邪や急な発熱といった軽症患者に対応。(第二次体制)入院や緊急救手術が必要な重症患者に対応。(第三次体制)高度な治療を要する重篤患者に対応。

「Reduce」リードユース(発生抑制)

なごやめしなど
独自の文化があるところ。
これが名古屋の
アイデンティティ！

魅力的で素敵な人が
たくさんいるところ。
それから、おいしいご飯と
お酒も…
あれこれ迷っちゃいますね。

都市でありながら
公園、緑が多いため、
四季を感じられるところが
大好きです！

便利さと住みやすさ
バランスが良いですね！
東山動物園・科学館・
名ファイルは子どもの時から
お気に入りです！

田舎過ぎず、都会過ぎない
ところ。
名古屋城あたりの風景が
大好きです！

世界をめざすにあたつて
申し分ない都市のスペックが
備わっているところ！

名古屋駅の高層ビル群は
圧巻です！
摩天楼を見上げると
名古屋の力強さを感じます。

制)^{リユース}(再使
用)^{リサイクル}(再
生利用)」の3つの頭文字をとつ
た言葉で「ごみ減量のために必要
な取り組みを表す。

▼スーパー・メガリージョン

東京、名古屋、大阪はメガリ
ジョンと呼ばれる大都市圏が
形成しているが、スーパー・メガ
リージョンは、その三大都市圏が
それぞれの特色を發揮しつつリ
ニア中央新幹線全線開業により
一体化し形成される世界最大の
人口を有する巨大経済圏のこと。

▼名古屋大都市圏

名古屋市を中心におおむね30
50kmの範囲で、産業、観光、防災
など分野ごとに柔軟に捉えた工
アリア。

▼MICE(マイス)

企業等の会議(Meeting)、企業
等の行う報奨、研修旅行(Incentive
Travel)、国際機関・団体・学会等
が行う国際会議(Convention)
展示会・見本市・イベント
(Exhibition/Event)の頭文字。
多くの集客交流が見込まれる
ジネスイベントなどの総称。

▼ロコモティブシンドrome

骨や関節、筋肉などの運動器の衰
えが原因で、「立つ」「歩く」といっ
た移動の機能が低下している状
態のこと。



名古屋市総合計画2023 ガイドブック

令和2(2020)年4月

編集・発行：名古屋市総務局企画部企画課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 052-972-2203 FAX 052-972-4418

